

ニシテ午後四時三十分以後ニ取消ヲ乞フ時ハ取消料十二兩ヲ支辨スルコトヲ要ス

地方規定拾七

申告ニ記載スル時間ノ二十四時間内ニ出帆セサル船舶ハ滯留費トシテ十二兩其後各二十四時間毎ニ十二兩ヲ支拂フヘシ但シ翌日出帆ノ船舶ハ午後四時三十分迄ニ出帆時ノ訂正ヲ爲スコトヲ得

總則八

水先船

第一條 水先船ハ港務局ニテ水夫ト共ニ登記ヲ爲シ證明書及番號ヲ受クヘシ
免許水先船ナル文字ヲ明瞭ニ船尾及首帆ノ項キニ表示スヘシ而シテ其掲クル旗ニ地平線ノ上半部ハ黄色ニシテ下部ハ綠色ナルヘシ斯ク登記シタル水先船ハ其領事及税關ヨリノ交付シタル書類ヲ備ヘ置キ港内及水先区域内ヲ自由ニ航海スルコトヲ得而シテ噸稅ヲ免除ス港長又ハ其代理ノ要求ニ依リ税關又ハ港務局ニ屬スル使備人カ燈臺又ハ燈臺船ニ要スル貯藏品ヲ運搬スルトキハ其区域内ニ於テ水先船ヲ使用ニ供スル義務ヲ有ス

第二條 免許水先船ハ毎年七月一日免狀改新ノ時ニ二十兩ノ手数料ヲ納附スヘシ

附則

牛莊港ニ於テ各水先人ノ乗用船ハ原免狀作製ノ時海關銀二十兩毎年ノ改新毎ニ二十兩ノ手数料ヲ納附スヘシ

第三條 水先人未登録船ニ乗船スルトキハ乗船中水先案内旗ヲ掲グル事ヲ得但港長ノ特許ナクシテ巡航スルコトヲ得ス

第四條 水先人未登録船ニ乗組マスシテ猥リニ水先案内旗ヲ掲ケタルトキハ其船主又ハ借主ハ當該官廳ノ所罰ヲ受クヘシ

第五條 登録ノ水先船ハ免許水先人若クハ證明書ヲ有スル見習人カ乗組ミ居ルトキノ外水先案内旗ヲ掲グルヲ得ス

地方規定十八

水先船ニシテ暫時他港ニ赴カントスルトキハ水先人屯所ニ其旨ヲ報告シ歸リタルトキハ其實事ヲ書面ニテ二十四時間内ニ港長迄通知スヘシ

總則九

到着ノ際掲クヘキ旗

投錨地ニ接近シタルトキハ水先人ハ左ノ通り掲ケシムルコトヲ要ス

赤白色第三號出港地ノ香港日本若クハ何ノ清港

青白色第二號出港地外國港ナレハ

黄青色第十號本船バラスト積載ノトキナレバ

赤色燕尾旗第五號本船彈藥或ハ燃焼物ヲ搭載

附則

牛莊港ニ於テハ船舶ノ投錨地ニ接近シタルトキハ水先ハ前方ノ高橋ニ左ノ旗ヲ掲ケシムヘシ

港ニ歸ルトキハ「レンデスボウス」フラグ若クハ「N」

天津ヨリ 第一號 S

芝罘ヨリ 第二號 T

上海ヨリ 第三號 H

寧波ヨリ 第四號 M

監洲ヨリ 第五號 B

福州ヨリ 第六號 W

厦門ヨリ 第七號 R

汕頭ヨリ 第八號 P

廣東ヨリ 第九號 L

臺灣ヨリ 第十號 K

香港ヨリ 電信旗 T

長崎ヨリ 第一區別旗 C

神戸ヨリ 第二區全 D

横濱ヨリ 第三區全 F

露國諸港ヨリ 第四區全 G

旅順港或ハ「ダルニー」ヨリ V

メインローヤルマストヘットニ火藥若クハ燃焼物ヲ積載スルトキハ

第五號或ハ B

傳染病アルトキハ 檢疫旗

總則拾

港用水先人、港内船舶碇泊等

第一條 港用水先人ノ有ル船ニ於テ港用水先人ノ職掌ハ碇泊地ノ外部ニ於テ船ノ擔任ヲ掌ルコト、港務局ヨリ命令ニ從ヒ船舶ヲ碇泊セシムルコト、船舶碇泊地變更、船渠、埠頭、碇泊地ヨリ出入、港内船舶、河又ハ港ノ保守ニ關スル凡テノ事件ヲ港務局ニ報告シ且扶助スルモノトス

第二條 船舶ノ碇泊ニ於テ港長ハ可成迅速ニ船長又ハ荷主ノ希望ヲ酌量シ便宜ヲ與フヘシ碇泊未定ノ船舶ノ入港荷役、開關ハ港長ノ命令アル迄之ヲ停止スルコトアルヘシ

第三條 船舶ノ確繫ハ港長ノ命令ニ從フヘシ局長ノ許可ナクシテ移轉スルヲ許サス

第四條 港用水先料ハ左ノ如シ

船舶ノ碇泊地變更

十五兩

埠頭ヨリ出入

十五兩

支那鐵道棧橋ヨリ出入、露居留地(牛家屯ヨリ)出入

一千五百屯以下ノ船舶

一兩五匁(每呎)

一千五百噸以上ノ船舶

二兩五匁(每呎)

附則

現今牛莊港ニ港用水先人ナシ故ニ普通ノ水先人ニ支拂フヘシ
以上ノ規則及總則ハ假ナルヲ以テ情況ニ從ヒ訂正附加スルコトヲ得

港長

テ、ストロイン

T. Stron

附錄第九號

天津港水先規則

第一章

本港水先ニ關スル必要ナル附則及規則ハ領事并ニ商業會議所議員ト商議ノ上港務長之ヲ規定ス水先定員水先案内料及水先區域モ同一ノ方法ニ依リ定ムルモノトス

第一條 天津港ノ水先營業人ノ定員ヲ八名トス若シ船舶出入上必要ナル場合ニハ港務長ノ權限ニテ十名迄増加スルコトヲ得

第二條 本港ノ水先區域左ノ如シ

本港ノ上部限界ヨリ凹洲ノ五哩以外迄ノ間トス

第三條 水先案内料左ノ如シ

イ帆船

一呎ニ付天津兩ニテ

五兩

汽船若クハ被曳帆船 同前

四兩

右ハ外部ノ洲ヨリ水先人屯所迄トス

同屯所ヨリ新河波戸場ニ至ル間ノ所迄ハ一呎毎ニ一兩ナリトス

ロ水先人屯所太沽塘沽及新河戸場ヨリ天津迄ハ左ノ如シ

帆船 壹呎ニ付天津兩

六兩

汽船又ハ被曳帆船 同前

五兩

ハ登簿噸數千二百噸以上ノ船舶ハ一噸ニ付三仙トシ千二百噸ヲ超過シタル噸數ニ對シテハ(イ)及(ロ)號ニ據リ徵收スルモノトス

ニ最淺ノ喫水ヲ六呎ト定ム假令ハ喫水五呎ヲ示スモ六呎トシテ水先料ヲ計算ス

ホ半呎ニ分數アリタルトキハ單ニ半呎ノ喫水トシテ計算ス

ヘ本港乃チ外部投錨地太沽及塘沽ニ於ケル船舶ノ移轉及河口ト塘沽トノ間

ノ場所ヨリ新河波戸場迄移轉スルトキハ拾五兩トシテ登簿噸數千二百噸ヨリ以上ノ噸數ニ對シテハ一噸ニ付一兩ノ割ヲ以テ加算ス

ト外部ノ洲ノ限界五哩以内ニ船舶ヲ乘リ入レ外部投錨地ニ投錨スルトキハ

喫水一呎ニ付二兩トス潮待ノ爲メニ假泊スル船舶ハ此ノ限りニ非ス

チ水先人三十六時間以上天津ニ於テ船待スル場合ハ一日(二十四時間)ニ付十

五兩ヲ請求スルコトヲ得ヘシ

リ水先人ノ過失ニ出テス天候不良氷結又ハ其他ノ原因ニヨリ水先人下船ノ場所以外ニ下船シタルトキハ歸着ニ要スル費用ノ外天津ニ着スル迄一日十兩ノ割ヲ以テ請求スルコトヲ得ヘシ

第四條 水先人ハ定期航海ノ船舶ト契約ヲナシ水先案内料ヲ約定シタルモノハ

外本則ニ規程スル金額ヨリ多額又ハ少額ノ案内料ヲ請取ルヘカラス

前項ニ於ケル船舶トノ契約ハ凡テ港務長ノ承允ヲ要ス

第二章

條約國ノ臣民市民及被護民ハ清國民ト同シク國籍ノ區別ヲ爲サシテ現行規則及各諸港ニ實施セラレタル細則ニ基キ水先人補缺ノ場合ニ任命所ヨリ任命ノ選

定ヲ得ルモノトス

三百七十八

第三章

水先人選定所ハ港長ヲ其所長トシ先任水先人又領事商業會議所ノ協議ヲ經テ港長カ調製公布シタル水先人名簿ノ内ヨリ港長ノ抽籤シタル二名ノ所員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 選定所ハ港長之ヲ招集シ港長ヲ除キ其所員ニハ每開會日ニ海關兩金十兩ノ日當ヲ給ス

第四章

第一條 水先人ノ内ニ缺員ヲ生シタル場合ハ新聞紙ニ其旨ヲ廣告スヘシ而シテ撰定所ハ其廣告ノ日ヨリ八日目ニ競争試験ヲ執行シ之ヲ補缺ス

第二條 撰定所ハ嘗テ免許水先人ニシテ其受有免狀ヲ沒收セラレタル者又ハ其者ノ性行其他ニ對シ領事ノ相當ナル證明書ナキ志願者ハ受験スルコトヲ許サス

第三條 本試験ハ公開ニシテ無料トス而シテ受験者中試験ニ最良ノ成績ヲ得タル者ヲ國籍ノ區別ナク補缺者トシテ採用スヘシ

第四條 當該領事及ヒ其代理人ハ試験ニ臨席スルコトヲ得又之レニ干與スルコトヲ得ヘシ

第五條 水先人免許志願者ノ撰定ハ撰定所員ノ匿名投票ノ多數ヲ以テ決定スヘシ

但當該領事臨場ナキトキハ港長其投票ヲ裁斷スヘシ

第六條 水先人ニ缺員アリタル場合ニハ港長ハ其地ノ新聞紙ニ其旨ヲ廣告シ又上海ニ於テモ其必要アリト認メタルトキハ試験執行ノ期日ト共ニ廣告ス

第七條 撰定所ハ志願者ノ體格證明書ニ水先人トシテ適當ナル視力アルコトノ記載ナキモノハ受験者トシテ採用セス

前項ノ證明書ハ其地稅關吏ノ證明ヲ要ス

第八條 撰定所ハ船長又ハ運轉士免狀ヲ受有シ且ツ少ナクモ滿二ケ年以上其免狀ヲ行使シタルノ證明ナキ者ハ試験ヲ受ルコトヲ許サス

第九條 水先人試験ノ志願者ハ左ノ條件ノ一ニ適合スルコトヲ撰定所ニ證明スヘシ

試験前二ケ年ノ内少ナクモ六ヶ月以上該地方ノ沿岸各港ヲ帆走シタルコト若

三百七十九

クハ水先修業生トシテ滿四ヶ月間水先案内ニ從事セシコト或ハ同期間港内曳船ノ水先若クハ船長トシテ執職セシコト

第十條 水先人志願者其年齡滿四十五歳ニ達シタルトキハ水先人ノ受験資格ヲ失フモノトス且ツ水先人志願者名簿ヨリ其氏名ヲ刪際ス

第五章

第一條 水先免狀ハ清國政府ヲ代表シ稅務司ノ名ヲ以テ之ヲ交付スヘシ

清國民人ニアラサル水先人ニ交付スル免狀ニハ裏書ヲナシ且ツ當該領事館ニ於テ登録セラルヘシ

第二條 免許水先人ハ毎年七月初メニ其受有免狀ノ書換ニ對シ海關兩十兩ヲ納付スヘシ

第三條 免許水先人ニハ印刷セル該法規ヲ付與スヘシ而シテ必要ナル場合ニハ該法規並ニ免狀ヲ表示スヘシ

第六章

第一條 免許水先人ハ水先修業生ヲ使用スルコトヲ得ルト共ニ一切ノ責任ヲ負フモノトス

免許水先人ノ願出ニヨリ港長其修業生ニ特種ノ證書ヲ交付スルコトアルヘシ

第二條 本港船舶ノ都合ニヨリ規定水先人ノ外猶水先人ヲ要スル場合ニハ港長ハ撰定所ヨリ交付セラレタル證書ヲ受有スル水先修業生ニ對シ水先人トシテ臨時ニ或區域内ヲ營業スヘキコトヲ命ス

第七章

第一條 免許水先人ハ單獨又ハ組合ニテ營業ヲ爲スヲ得ヘシ同水先人ハ港長ノ命令ヲ遵奉セサルヘカラス而シテ港長ハ水先人ヲ統轄シ當該領事ニ起訴シテ其受有免狀ノ行使ノ停止若クハ禁止ヲ爲ス權限ヲ有ス

免許水先人外國人ナルトキハ其起訴ハ三日以内ニ於テスヘシ

第二條 不法ノ行爲アリタルモノニシテ領事ノ處罰ヲ受ケ又ハ收入規則ニ違反セル證據アリタルモノハ港長ヨリ當該領事ニ起訴シテ其受有免狀行使ノ停止若クハ禁止ヲ命セラルコトアルヘシ

前項ノ起訴ハ外國人ナルトキハ三日以内ニ於テスヘシ

第三條 無免許ニテ水先嚮導ヲナシ又ハ他人ノ水先免狀ヲ使用シタルモノハ本人ノ所屬官廳ニ於テ其國法ニ照シ處分セラルモノトス

水先人カ他人ニ其受有免狀ヲ貸與シタルトキハ前項ト同一ノ手續ヲ以テ處分セラルルト共ニ其受有免狀ヲ沒收スヘシ

第四條 船長カ無免許水先人ヲ使傭シタル場合ハ當該官廳ニ於テ百兩ノ罰金ニ處ス

第十一條 港長ハ水先人カ老年又ハ長期疾病ノ爲メ能ク其職務ヲ行ヒ得サルトキハ其受有スル免狀ヲ返納セシムヘキ權利アルモノトス又水先人ハ之ヲ當該領事汽船會社及天津商業會議所ノ代表者等ヨリ組織セル局ニ控訴スルコトヲ得ヘシ

第十二條 免許水先人ハ海難ニ罹リタル船舶ニ對シ其救助ノ報酬ヲ契約スルカ爲ニ遲滯スルコトナク出來得ル丈ノ援助ヲ與フヘシ若シ本件ニ關シ紛議ノ起リタル場合ニハ救助上普通行ハルル方法ニ據リ之ヲ決定ス

第十三條 船舶カ坐礁シタルトキハ本船乗組ノ免許水先人ハ本船ノ位置水深潮時坐礁ノ日時水底ノ狀態等詳細ノ事項ヲ記載シ遲滯ナク港長ニ報告スヘシ

第十四條 砂及水路ノ變動並ニ浮標及礁等ニ異變ノアリタルコトヲ認知シタル場合ニハ其認知シタル水先人ヨリ遲滯ナク其旨ヲ報告スヘシ

第八章

第一條 水先人ハ其乗組船員ト共ニ港務局ニ登録シ而シテ證書及ヒ番號ヲ付與セラルヘシ

免許水船先ナル文字並ニ番號ヲ其船尾及ヒ大帆ノ上部ニ明瞭ニ表示スヘシ而シテ上半部黃色下半部綠色ノ染分ケ旗ヲ掲グヘシ港務局ニ登録セラレタル水先船ハ領事及稅關ヨリ交付セラレタル凡テノ書類ヲ備ヘ置キ港内及水先區域内ヲ自由ニ航行スルコトヲ得ヘシ而シテ噸稅ヲ免除ス

港長又ハ其代理人ノ請求ニ依リ稅關又ハ港務局員カ水先船ニテ其區域内ニ於ケル燈臺又ハ燈臺船ニ供給スヘキ食糧ヲ運搬スル如キコトアルトキハ之カ使用ニ供スル義務アルモノトス

第二條 免許水先船ハ各自毎年七月初ニ於ケル免狀新換ノ時ニ二十兩ノ手数料ヲ納ムヘシ

第三條 水先人カ未登録船ヲ使用スル場合ニ其乗船中水先案内旗ヲ掲ケタルコトヲ得但シ港長ノ特別ノ許可ナクシテ未登録船ヲ巡航セシムルコトヲ得ス

第四條 水先人未登録船ニ乗組マスシテ猥リニ水先案内旗ヲ掲ケタルトキハ其

船主又ハ借主ハ當該官廳ノ所罰ヲ受クルモノトス

第五條 登錄水先船ニ免許水先人若クハ證書受有ノ修業生カ乗組ミ居ルトキノ外水先案内旗ヲ掲クルコトヲ得サルモノトス

第九章

投錨地ニ近ツキタル船舶ハ其出發地ヲ水先人ニ明示スヘシ其方法ハ左ノ如シ

一 赤旗及白旗(第三)香港、日本、又ハ清國ノ或ル港ヨリ入港スル船舶

一 青旗及白旗(第二)外國ヨリ入港スル船舶

一 黃旗及青旗(第十)空船

一 赤色ノ燕尾形旗(第五)火藥又ハ其他ノ可燃性物ヲ搭載セル船舶

注意右九章ハ赤色旗ヲ掲クル船舶ニ對シテハ之ヲ實施セサルモノトス

第十章

第一條 若シ港内ノ水先ニ從事スル水先人アルトキハ其職務ハ投錨地ノ外方境

界ニ於テ船舶ニ乗組ミ左ノ事項ニ對スル責任ヲ有スルモノトス

一 港務局ノ命令ニ從ヒ船舶ノ碇繫ヲ指定スルコト

二 船舶ノ碇泊地ヲ移轉スルコト、入渠又ハ出渠、波戶場へ着ケ又ハ離スコト、又

ハ拔錨スルコト

三 港内ノ運送及河港保存上ノ事ニ關シテハ凡テ該事項ヲ港務局ニ報告スル

コト

第二條 船舶ノ碇繫ニ關シ港長ハ其船長又ハ荷主ノ希望ヲ參酌シ便宜ヲ與フル

コトアルヘシ而シテ碇繫スル船舶ニシテ其入港、荷役及ヒ出港ノ手續ヲ了セサ

ルトキハ税關ハ港長ノ命令アル迄之ヲ停止スルコトアルヘシ

第三條 船舶ハ港長ノ命令ニ從ヒテ碇泊シ其許可ナケレハ其投錨地ヲ變更スヘ

カラス

第四條 港内水先案内料ハ港長宛ニ納付スヘシ其料額左ノ如シ

一 船舶ノ碇繫又ハ出港スルトキ 金 兩

一 入渠、出渠、繫留等ノトキ 同 同

一 船舶ノ碇繫ヲ變更スルトキ 同 同

一 波戶場ニ横付シ又ハ取離ストキ 同 同

注意港内水先人ニ關シテ本則以外ニ別ニ規程ナシ

以上ノ法規ハ各條約國領事及商業會議所員トノ商議ノ上港長ノ規程シタルモノ

ニシテ又本則ノ改正又ハ挿入刪除ハ前同一ノ手續ニ依ルモノトス
 千九百三年五月八日天津港務局ニ於テ

港長 ゼー、エイチ、ゼーニユースミル

附錄第十號

仁川明治三十六年度居留地經費歲入出豫算

科目	歲入		摘要
	豫算	金高	
使用料及手数料		一、八九九	土地及建物使用料鑑札其他手数料
雜收入		二、九三七	小學校授業料、幼稚園保育料、其他雜收入
繰越金		五〇〇	前年度決算殘金
地所建物課金		二、七九〇	
營業課金		一七、九八〇	營業、船車
戶數割		五、二〇四	
寄附金		二〇〇	消防費、消毒器購入費

歲入合計	歲出 (經常部)		
	豫算	金高	
三二、五一〇		七、四六三	諸給、用度、修繕
		五五	
		五五〇	道路、溝渠、修繕費
		七、五四〇	小學校、幼稚園費
		三、九六六	病院、避病院費
		三三〇	大神宮、招魂社
		一、三〇一	消防、夜巡、街燈費
		八四	墓地保存費
		二四	公園樹木手入費
		一一六	旅行赤貧病死者費其他扶助費
		九〇〇	天長節軍隊待遇等ノ諸費
		三一〇	公立建物保險料
		一、七五三	

科 目	豫 算 金 高	摘 要
經常部合計	二四、三八二	
歲 出 (臨時部)		
新設備費	一、二五六	民役所、避病院、小學校各設備
警備新設費	五二〇	器機、雜設備
借入金償却	五、三五二	
臨時部合計	七、一二八	
歲出總計	三一、五一〇	

附錄第十一號

朝鮮通商港韓國政府

傳染疫病侵入豫防假設規則

- 第一條 凡ソ傳染病アル地方ヨリ來ル所ノ船隻ハ朝鮮船ト外國船トヲ論セス暫ク港界外ニ投錨シ前橋ニ黃旗ヲ掲グヘシ
- 第二條 該船ハ稅關檢疫委員乘船スル迄ノ間陸上又ハ他船ト往來交接スヘカラス

ス

又乗組員及船客ヲ上陸セシムヘカラス

- 第三條 若シ檢疫委員ニテ船中傳染病者ナク又航海ノ當初ヨリ着港マテノ間該病者ナカリシコトヲ查悉スルトキハ該委員ハ該船通常ノ碇泊場ニ進入シ自由交接ヲ行フヲ許スヘシ
- 第四條 若シ朝鮮通商港ニ至ル航海ノ間船中傳染病者アリシトキハ該船ハ檢疫委員ノ指示ニ從テ陸上ヨリ安全ノ距離ニ投錨スヘシ而シテ此規則ヲ施行スル

- 第五條 傳染病者ハ陸上ノ避病院又ハ其他檢疫委員ノ指示スル適當ノ場所ニ送ルヘシ若死者アレハ其屍體ヲ埋葬スル時刻場所及其方法ハ檢疫委員ノ指揮ニ從フヘシ
- 第六條 以上所載ノ如ク傳染病者及其屍體ヲ處分セル後檢疫委員ハ乗組員及船客ヲ消毒スヘシ而シテ後乗組員船客ハ該委員ヲ經テ上陸ノ免許證書ヲ受取ルヘシ但該委員ハ該船自由交接ノ許否如何ヲ稅關長ニ申告スルモノトス

- 第七條 檢疫ノ爲メ停留セラレタル船ノ船長乗組員又ハ船客ハ檢疫委員ノ處置

ニ服セスシテ書面ヲ以テ其本國官吏ニ告訴セントスルトキハ税關ニテ其爲メ
百方順便ノ補助ヲ與フヘシ然トモ該官吏ノ查斷ヲ經サル間ハ此規則ヲ遵守セ
サルヘカラス

第八條 凡ソ此規則ヲ犯シタル船及人ハ税關長ノ請求ニ依リ其本國領事館ニテ
處辨スヘシ

第九條 凡ソ船隻開來スル所ノ港岸該病ニ傳染スルヤヲ決定スルニハ監理官及
税關長ト條約國ノ領事ト會議ノ上多數ノ說ニ從フヘシ但何地方ヲ問ハス其國
ノ政府ニテ傳染地ト公認スルトキハ朝鮮各港ノ税關長モ亦同様公認シテ該地
方ヨリ來ル所ノ各船ニ對シ此規則ヲ施行スヘシ

第十條 傳染病ノ爲メ病院ヲ設立スルノ費用及其毎日ノ諸費ハ朝鮮税關ニテ支
辨スヘシ然トモ病者ノ食物藥餌及看護ニ關スル日費ハ其關係ノ船集ヨリ該國
領事ヲ經テ取立ヘシ

第十一條 此規則ハ試驗ノ爲メニ施行スル者ニテ朝鮮政府ハ各國公使ト協議ノ
上修正改補スルヲ得ヘシ若シ後來朝鮮政府ニテ此規則ヲ廢止セントスレハ其
前此規則ヲ認諾シタル各國公使ニ二個月間ノ豫報ヲ爲スヘシ

附錄第十二號 (釜山)

船舶檢疫規則(日本領事館)

第一條 當港ニ於テ傳染病流行地ヨリ入港スル本邦船舶ニ對シ檢疫ヲ施行スル
旨ヲ本官ヨリ告示スルトキハ右船舶ハ本規則ニ依リ檢疫ヲ受クヘシ

第二條 第一條ニ規定セル船舶ハ入港ノ際先ツ港界外ニ投錨シ前橋ニ黃旗ヲ掲
クヘシ

第三條 第一條ニ規定セル船舶ハ海關檢疫委員ノ乘船スル迄ハ陸上又ハ他ノ船
舶ト往來交通シ又ハ乗組員船客ヲ上陸セシムルコトヲ得ス

第四條 檢疫委員カ船中又ハ該船舶航海ノ初ヨリ着港迄ノ間ニ傳染病者ナカリシ
コトヲ查悉スルトキハ該船舶ハ許可ヲ得テ港内通常ノ碇船場ニ進入シ自由ニ
陸上又ハ他ノ船舶ト交通スルコトヲ得

第五條 本邦船舶ニシテ韓國通商港ニ航海ノ途中傳染病者アリシトキハ當港入
港ノ際該船舶ハ檢疫委員ノ指定スル場所ニ投錨スヘシ右船舶ハ海關ノ許可ヲ
得ルニ非レハ陸上又ハ他ノ船舶ト往來交通スルヲ得ス

第六條 傳染病者ハ陸上避病院其他檢疫委員ノ指定スル適當ノ場所ニ送ルヘシ

若シ死者アルトキハ其死體ヲ埋葬スル時刻場所及其方法ハ檢疫委員之ヲ指定ス

前項ノ場合ニ於テ乗組員及船客ハ消毒ヲ受ケタル後檢疫委員ヲ經テ上陸免許證ヲ受ケ上陸スルコトヲ得

第七條 檢疫ノ爲メ停留セラレタル船舶ノ船長乗組員又ハ船客ニシテ檢疫委員ノ處分ニ服サ、ルトキハ書面ヲ以テ當館ニ訴フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テモ當館ノ裁斷ヲ經サル間ハ尙檢疫委員ノ處分ニ從フヘシ

第八條 本規則ニ違反スル者ハ十圓以下ノ罰金又ハ拘留ニ處ス

附則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附錄第十三號

韓國人所有ノ西洋形船舶ニ關スル規則

第一條 韓國臣民ニシテ官吏若クハ商人カ西洋形船舶ヲ取得シタルトキハ通商港ノ監理ニ其事實ヲ報告スヘシ

監理ハ船舶所有者ノ權利ヲ擁護スル爲メ其購買證書其他ノ必要ナル書類ヲ提

出セシムヘシ

第二條 監理及ヒ稅務司ハ該書類ヲ調査シテ其ノ船舶カ確カニ韓國臣民ノ所有ニ相違ナキヲ認メタルトキハ之ヲ登録シテ國籍證書ヲ交付シ該船舶ニ韓國國旗ヲ掲グルコトヲ許可ス

第三條 國籍證書ノ交付ヲ受ケントスル者ハ稅則ニ據リ登録噸數壹噸ニ付汽船ニアリテハ金五十錢帆船ニアリテハ金二十五錢ヲ納付シ且ツ登録手数料トシテ金二十弗ヲ納ムヘシ

第四條 國籍證書ハ漢英兩文ヲ以テ船名所有者氏名購買年月日價格船舶事項積量及登録噸數ヲ記入スヘシ

第五條 船名ハ漢英兩文ヲ以テ船尾ニ明記シ登録噸數及登録番號ハ中央ノ艙口ニ彫刻スヘシ

第六條 船舶カ國籍證書ヲ遺失シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其事實ヲ稅關ニ具申シ再授ヲ請求スヘシ

若シモ船舶カ原登録地以外ノ港ニアルトキニ前記ノ事實ヲ生シタルトキハ原登録地ノ監理及稅務司ヨリ再交付アル迄ハ該船舶ノ現在地ニ於ケル稅關ヨリ

假證書ヲ交付スルコトアルヘシ

第七條 船舶カ登録後事項ニ變更ヲ來シタルトキハ國籍證書ニ其變更事項ヲ記錄スル爲メ税關ニ報告スヘシ

第八條 船舶ヲ賣却シタル場合ニハ税關ニ報告シ其證書ヲ返還スヘシ

若シ外國人ニ賣却シタル場合ニハ登録ヲ抹消シ韓國臣民ニ讓渡シタルトキハ登録ヲ訂正シ若クハ舊登録番號ト同一ノ番號ヲ有スル證書ヲ新所有者ニ交付ス

第九條 登録シタル韓國船舶ハ條約ニ基キ韓國ノ通商港ニ出入スル外國船舶ノ例ニ倣ヒテ總テノ法律規則ニ遵ヒ關税及噸税ヲ納メ又税關ニ出入港ノ手續ヲナシ其入港ノ場合ニハ税務司ニ船舶ノ書類ヲ提出スヘシ

第十條 不開港ニ通商ノ許可ヲ得タル船舶ハ同事情ノ下ニ外國船ニ對シテ規程シタル法規ヲ適用スヘシ

第十一條 登録シタル韓國船舶ニシテ外國船舶ニ關スル通商規程又ハ不開港地ニ出入スル外國船舶ニ對スル規則ニ違反スル所爲アリタルトキハ監理及税務司ニ於テ相當ノ處罰ヲ爲スモノトス

船長及船員ニ關スル規則

第一條 韓國船舶ノ船長トシテ乗組ムヘキ外國人ハ先ツ税務司ニ其受有ノ免狀ヲ提出スヘシ

之ヲ雇入レタル場合ハ税務司ハ其氏名國籍雇入年月日ヲ船舶登録簿ニ記載スルモノトス

船長變更ノ場合ニ於テハ前項ト同一ノ手續ヲ以テ訂正スヘシ

第二條 外國船舶ノ船長ト同一ノ方法ニヨル航海日誌ヲ船内ニ備付クヘシ

第三條 船舶ノ箇條ニ於テハ船員氏名國籍年齡給料及ヒ雇入雇止ノ年月日ヲ記載スヘシ

第四條 船員ニシテ乗組中不法ノ行爲アリタル場合ニハ船長ハ税務司ニ其旨ヲ報告スヘシ其行爲ニ對シ税務司ハ監理或ハ領事ノ何レニヨリテ處罰シ得ヘキ行爲ナル乎ヲ辨別スルモノトス

千八百八十六年九月十一日於京城

總稅務司エツチエフ、マーリル署名

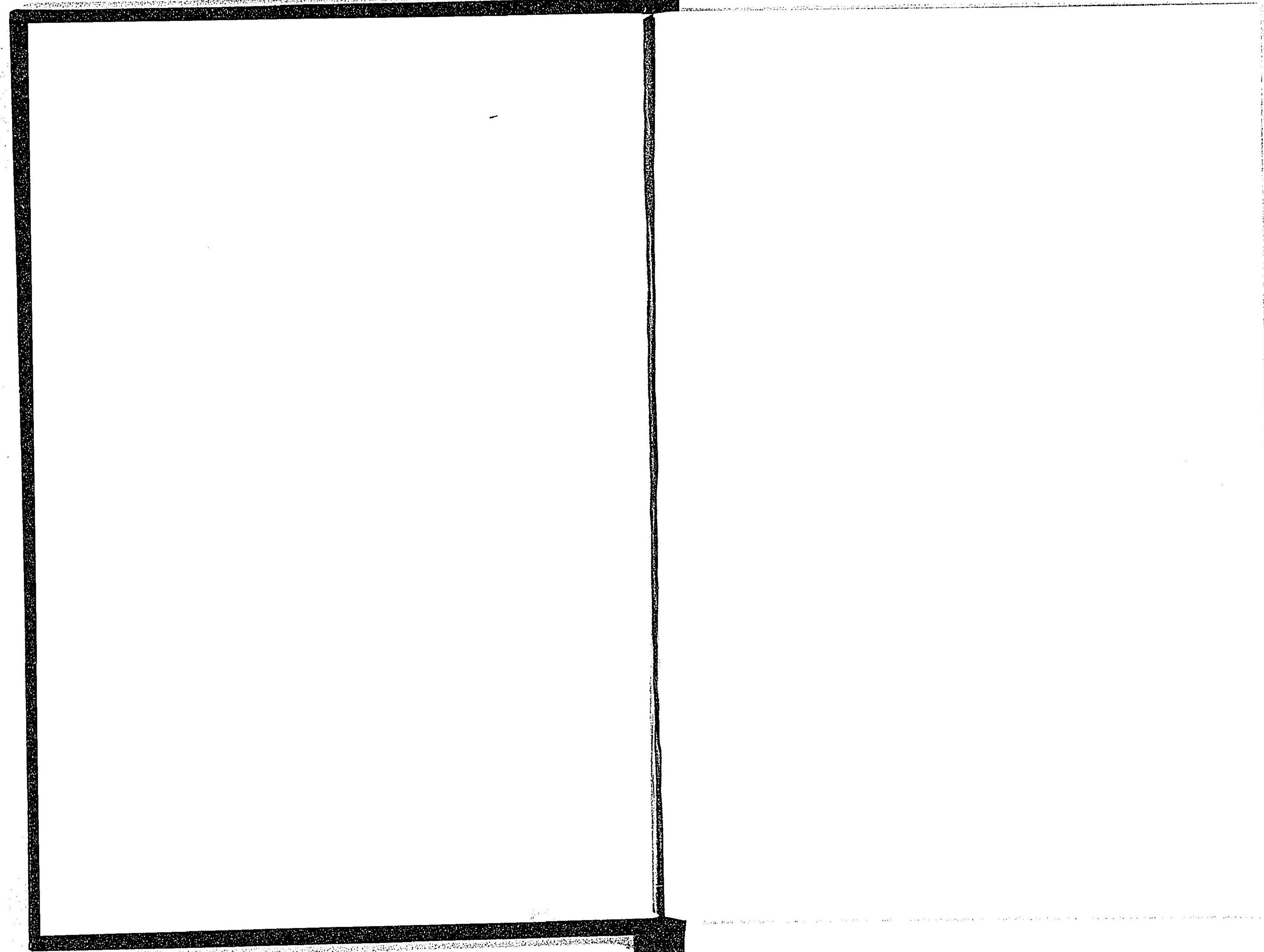
明治三十七年三月三十日印刷
明治三十七年三月三十一日發行

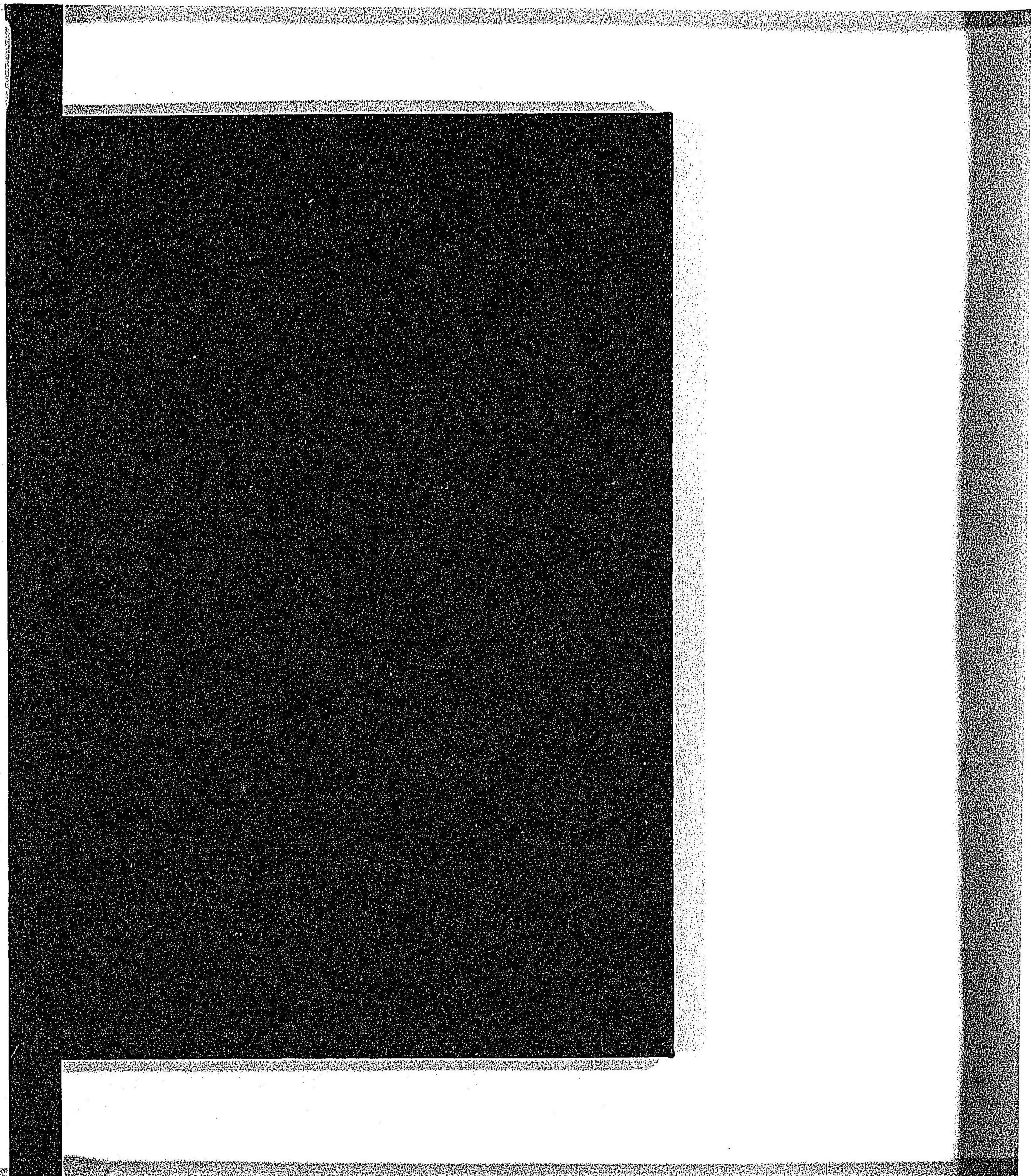
遞信省管船局

印刷者 松本魁
東京市京橋區宗十郎町十五番地

印刷所 會社東京國文社
東京市京橋區宗十郎町十五番地

ISM-74





319
59

(M)

067272-000-0

319-59

北清及韓国海事取調書

通信省管船局

M37.3

CDG-0477



